

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300462		
法人名	有限会社ケア・サポート島原		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地	〒855-0075 長崎県島原市下折橋町3433-1		
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果市町村受理日	平成22年2月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあおぞらは利用者のその日その時の気持ちをくみ取って安心して暮らせるように支援している。例えば買い物に行かれない方、お寺に行きたい方、裁縫をしたい方等々状況や要望に応じた柔軟な支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は昨年の外部評価を受けて広報紙「あおぞら通信」発行の取り組みがあった。3ヶ月に1回ホームの活動報告など全体的な記事に加え、各入居者の写真と近況報告記事を添えて個別に家族また遠方に住む別家族、親類にも送付し、生き生きとした日常の表情を捉えた写真からも本人の状況がよく伝わると大変好評を得ることが出来た。また、かねてより念願の通所事業「デイサービスあおぞら」も開設し、1月よりスタートした。高齢となられた入居者家族に対する支援を契機に、地域の方にも利用していただけるようにとの思いが結実した。1日定員3名としており、手厚い介護の為に今後のスタッフ増員も考慮している。積極的に活発な地域交流を大切に取り組んできており、更に地域貢献を念頭に認知症対応の施設として何が出来るかを真摯に考える当ホームの前進は期待が大きい。地域のみならず連絡協議会において果たす役割も大きく、入居者本位の支援を理念に沿って取り組む為の人材育成にも期待できるホームである

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内のわかりやすい場所に理念を掲示し理解、共有することで介護サービスの実践につなげている	理念の文言の中で「安心して家庭の生活が送れる」を挙げ、理念実践への取り組みとして体調面に大きな不安を抱える認知症高齢者への心身のケア、早めの支援に努め、ホームを第二の自分の家と提供いただける暮らしを提供したいとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域の行事や町内会に参加し交流の機会を設け日常的な交流ができるよう心がけている	周囲の畑で栽培された野菜、果物を分けてくださったり、事業所の生垣の周りに季節の花を植えてくださる、また事業所の畑をトラクターで耕してくださるなど温かな近隣との交流がある。秋に連絡協議会で取り組んだ認知症に関する市民フォーラムでは、職員が参加した寸劇を見てくださった近隣の方もおられ、啓蒙活動も広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症への理解を深めてもらえる様にボランティアや施設内見学を積極的に受け入れ開かれた施設として努めている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い日々サービスに努めている	2ヶ月に1回開催する会議においては活動報告やサービスの質の向上について意見、提案をいただきながら、町内会長(地域)と市職員(行政)に対して事業所としてのアピールが出来て、かつ会議メンバーからは評価をいただいていると感じている。会議を通じて町内会長、自治会班長と親しくなり地域との連携、理解が深まっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議で情報交換を行い取りくみを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主導で立ち上げられた島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会に参加し、事務局としての役割をはたし協働に努めている。施設長が市役所へ出向く機会も多く、また行政から依頼されること(選挙管理委員会からの掲示の依頼など)もあり、報告、連絡、相談がなされる良好な関係が作られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で身体拘束について正しい知識を学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また玄関や窓はいつでも開放できるようにしている	拘束の内容が広範囲であり、学びと確認が必要なことを考慮している。入居者の生命安全を第一とした上で事故と拘束の必要性との関連を考えて、未然に防ぐ為の情報把握を大切にしている。言葉の拘束は、内容を掌握している施設長、副施設長が業務の中で気づいたその場で職員へ指導するよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し知識を学んだり虐待が見過ごされることがないように観察したり円滑な人間関係を築くことで事前の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し権利擁護に関する制度について理解を深めたりそれらを活用できるよう職員間で学ぶ機会を設けている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前には必ず施設内見学をしていたり、ただき分かりやすく十分に丁寧な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見を話せる体制をつくり、面会の際には職員とコミュニケーションを図ることで家族の意見、要望を反映させている	常に家族とは面会時などにも意見聴取の姿勢で対応しており、話しやすい信頼関係が構築されている。今年度はインフルエンザの影響で年に一度家族が一同に会する敬老会が中止だったが、敬老会、正月前後の家族訪問が多い機会を捉え、出来る限り個別対応でお話を伺っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや意見で話せる機会があり運営に反映させている	あくまで入居者の支援本位でありたいという方針から長時間の会議を設定せず、毎朝の申し送り時に報告、連絡、問題についての話し合いや確認など情報共有がなされ、不在の職員へも連絡帳で伝達している。職員からの意見は直接施設長へ、または副施設長が個別に聞き施設長へ伝える等意見が表に出やすいように配慮されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常からコミュニケーションを密に行いサービス残業なく各自がやりがいをもって働きやすい職場環境の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の機会を多く設け技術や知識を学びスキルアップできるようトレーニングしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通じて同業者と交流する機会を作り幅広いネットワークを形成しサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中でコミュニケーションを図り本人が安心して相談ができるよう受容の姿勢で信頼関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、要望等を傾聴しこれまでの経緯を含めどのような対応ができるか話し合いながら関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受理面接等で必要としている支援を見極め多角的な視点からの対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣類の整理や食器拭き等を共に行い喜怒哀楽を共にし生活共同体としての関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に本人の状況を報告したり広報誌を作成し本人と家族の絆を大切にしながら、支えていく関係を築いている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないようドライブに行ったり自由に電話連絡できるよう努めている	毎月2回のお寺参りを生活習慣とされていた入居者の意向にかなうようお連れして、お寺で会う顔馴染みの方との関係継続を含め支援している。女性の入居者はそれぞれの行きつけの美容室利用や、近隣の公園へドライブし昔なじみの方と会う機会を作るなど、個別支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を理解し職員が調整役となり集団レクやドライブ等に参加し孤立させることのない支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も気軽に話せるよう必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の好みや居室に馴染みの物を置くなどその人らしい暮らしを続けられるよう意向の把握に努めている	入居時に本人、家族から得られた情報に加えて、職員が会話の中で段々に生活歴、意向など伺って肉付けをしている。本人との会話が困難な方は家族の協力和表情などで思いや意向を把握し、変化が多くなってきた体調面は日常支援の中での職員の観察をもって心身両面の情報把握を重要としている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りやコミュニケーションの中から直接情報を引き出し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人日誌の記録、バイタルチェック、コミュニケーションで現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多面的な視点からケアについて必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している	プラン作成のプロセスは、本人、家族の意向や思い、懸案事項を入れた管理者作成の暫定案を、月1回のカンファレンスで居室担当職員を中心に職員全員で話し合い、職員の気づきの集積をプランに反映させている。毎月1日はプラン作成、評価の日と決めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録の中に細やかな気づきを記録し日々の情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれニーズに応じて家族の送り迎えや入院中の場合の付き添いなどサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて警察、消防、民生委員、ボランティア等と連絡できる体制をとり協力しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診や連絡相談等、連携を深めながら適切な医療を受けられるように支援している。	全員入居前からのかかりつけ医への継続受診がなされている。現在のところ往診はなく、通院支援はホームで対応しており、変化がなくても受診時には電話にて家族へ連絡している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回正看護師の訪問により健康管理をし異常や変化が見られた場合はその都度看護師に相談、報告を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診等で病院関係者との関係づくりを行っている。また毎日面会に行きできるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の意向、家族の意向を十分に尊重し事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、支援できるよう取り組んでいる	家族の意向、要望があり、医療連携が整い体制が確認できればターミナルケアに取り組むという方針をもとに話し合いながら決定していくこととしている。ホームで最後をとという意向は持たれていたが、最終的には医療機関を選択されることが多い。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加したり自己学習通じ蘇生法を学び急変や事故発生時に備えて、実践力を身に付けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。警備会社とも契約し連携している。地震時の避難訓練をこれから定期的に行っていく	火災発生予防に関して、近隣に案件を抱える為に消防署とも連携をとりながら対応に関する最善策を運営推進会議の場でも報告し、話し合っている。昨年10月には夜間想定訓練も実施している。	現在の案件に対しての対応として、他には予防自衛策としての更なる避難訓練への取り組みに期待したい。年2回の訓練にとどまらず反復することでの確認と自信、様々な想定での(出火場所など)シミュレーションを重ねて、かつ訓練、研修の取り組みを記録として残していけることを提案したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の今まで築いてこられた誇りやプライドを傷つけないよう言葉かけには十分注意し入浴や排泄等プライバシーの保護に努めている	排泄に関わることで、やさしい声のトーン、声量や言葉を選び、羞恥心に配慮した言葉かけを行っている。入浴時必要な場合は同性対応での支援がなされている。また、入居者の前で業務に関する事、個人的な内容の話はしないことを徹底するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常からコミュニケーションを密に行い希望を傾聴し意思表示をしやすい環境づくりを行っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にコミュニケーション会話の中で見すごしのないよう心がけ希望にそって支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや衣類選定、節目節目のお化粧等本人が望む身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に台所が見える位置にある。一人ひとりの好みをきいたり一緒に献立を考えたり、野菜の下ごしらえをしたり食器拭きをしたり食事を楽しむことのできる支援をしている	全介助のミキサー食の方など誤嚥の危険性が高く、細心の注意が必要な方が3名おられる為に見守りと介助の職員がつき、時間をずらして職員は食堂で食事を摂っている。嗜好や季節行事にあわせて献立をたて食を楽しみ、時に少量のお酒やワインなども楽しんでいただいている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量を考えた調理ができている。食事形態などその人の状態や力に応じた支援をしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者全員に口腔ケアの声かけを行い義歯の清潔保持のため夕食後は洗浄剤を使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録によりパターンを把握し排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。失敗しても自尊心を傷つけないような声かけをしている	日中は時間誘導で、布パンツとパット、リハビリパンツとパットとおむつから短期間で移行していただく自立支援をおこなっている。病院入院中はおむつに慣れきっていた方へも疾病罹患のリスクとトイレでの排泄の大切さを説明し納得して外していただいた経緯もあった。夜間のみ安全に配慮し一部ポータブルトイレを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェックして便秘にならないよう十分な水分補給、食材の工夫をしたり適度な運動をとり入れている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めてはいるものの入浴を楽しむことができるよう足浴をしたり入浴剤を使用している。またできるだけ本人の希望に沿って支援している	入居者の希望ももちろんだが、血圧の高い方など健康状態に常に留意しながら入浴支援に努めている。一部介助を含め入居者全員が介助が必要だが、プライバシーにも配慮しながら入浴をリラックスして楽しんでいただく支援を心がけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使いなれた寝具を希望に沿って使用し寝衣、室温を調節するなどして入眠しやすいよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬を理解するのは困難ではあるが説明書や看護師に確認するなどし服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、ドライブ、食器拭き、洗たくものたたみ等をしたり、その時期に応じた作業をしたりして役割、楽しみごとの支援をしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にドライブ、散歩など外出支援し普段は行かないような遠方への計画を立てている。またお寺や自宅等その日の希望に沿って出かけられるよう支援している	食材の買出しなどホームの買い物に職員と同行される他に、希望に沿って好みの服や使い慣れた化粧水を馴染みの店へ購入に出かける個別支援もなされている。今期はインフルエンザの影響で自粛せざるを得なかった遠出のドライブに春には出かけたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて個人で所持したり預かった時には一緒に買い物に行き使えるように支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビング内のみえる位置に電話を設置し自由に使えるようにしている。手紙の自筆困難な方は代筆支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居間に季節にあった飾り付けや写真の展示、生花を行い、いつでも居心地よく過ごせるように音、光、温度を調節し変化のある工夫をしている	リビング兼食堂の陽光が注ぐ窓からは畑が広がる景色が望めて、市中心部に近い住宅地でありながらその長閑さが寛ぎを増している。掘り炬燵のコーナーに設置していたテレビを今年度大画面受像機へ買い替え、テレビ観賞、カラオケと入居者に好評である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・和室を自由に移動できテレビをみたり横になったりイスに座って会話をしたり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が希望する写真や時計を配置したり使い慣れた家具などを使用している。各担当者が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めのクローゼットが備え付けであり、収納は十分に出来る為、タンス等の家具の持ち込みはあまり多くないが調度品、お位牌など少しでも馴染みの持ち込みのものがあることで「その人らしさ」がうかがえる。健康に配慮し快適に過ごしていただく為に各居室加湿器が家族の協力で備えてある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーで歩行、入浴排泄など「できること」「わかること」を活かして自立した生活が送れるよう工夫している		